



# interview Vol.5

東京土木施工管理技士会

## 優良技術者インタビュー

土木技術者の日頃の研究・研鑽を称え、技術者表彰規程に基づき、優良技術者の表彰を毎年行っています。今年度受賞された金田さんに工事のポイントや日々の業務について伺いました。



岩田地崎建設株式会社  
**金田 一文さん**  
(R2荒川中堤北葛西二丁目地区  
護岸改築工事現場代理人)

### 受賞 R2荒川中堤北葛西二丁目地区護岸改築工事

#### 主な工事内容

荒川中堤において中川側の低水護岸と護岸前面の地盤改良を目的とする工事。上空には高圧送電線や首都高速などが近接し、船舶の往来も多い現場での安全かつICTを用いた効率的な施工が高く評価された。

#### モノづくりが好き その想いを胸に、建設業の世界へ



この世界に入ったきっかけには、ものづくりが好きという気持ちが一番にあります。幼い頃は鉄道模型など街や構造物をつくる遊びが好きでした。また、父がこの業界に従事していたこともあって、トンネルや橋などを実際に見て興味を持ったことも大きかったですね。実際に出来上がったものを見て、その大きさや迫力に感動したことを覚えています。

#### 近接する送電線と首都高速 船舶の往来も管理する難解な現場



今回の工事は荒川と中川を挟む中堤での護岸工事とそれに伴う地盤改良工事です。現場は首都高速が近接していて、高圧の送電線も上空を通過していました。この環境下で、クレーンによる吊り上げ作業も多いため、送電線や首都高速への対策には気がつかれましたね。接触などの事故を絶対に起こさないよう、構造物との距離を正確に認識し、作業することが求められました。そこで、レーザースキャナーで現場を測定し、3Dデータを作成しました。これによって構造物との距離を正確に把握することができ、時間帯や季節によって異なる潮位の変化や送電線のたるみなどにも対応できるので、安全かつ効率的な施工が実現できました。河川を通行する船舶との連携については、メールやFAXでの連絡を原則廃止し、スプレッドシートを用いることで、一元管理を可能としました。現場の状態を可視化し、リアルタイムで情報共有ができたことは大きな効果がありましたね。

#### 積極的な広報活動で 地域からも愛される現場に



今回表彰いただいた工事は堤防をつくる河川工事です。インフラの整備や維持管理がSDGsの取組みの一つであることを知ってもらうため、工事についての動画をYouTubeで発信したり、地域の中学校から職業体験も受け入れ、測量体験などのプログラムを実施しました。コロナ禍で職業体験が中止になることも多いなかでの受け入れということで、学校からも大変感謝されました。「つくる」だけではない社会への貢献ということを実感できた活動でしたね。



#### 建設業界の未来に向けて リアルを基礎に、DXの推進を



このような表彰をいただけてとてもうれしく思いますし、この仕事をやってきてよかったなと感じています。もちろん私一人の力ではなく、現場の皆さん、特に若手の頑張りによることも大きかったと思います。若手の皆さんにはこれからの建設業界をひっぱっていく存在として期待しています。これからの建設業界は働き方改革や生産性向上により、DX化が加速していくことでしょう。そのなかで若手には現場に赴くことをおろそかにせずに、頑張してほしいです。やはりものづくりの基本は現場での経験。その経験をしっかりと身に付けてうえで、DXを活用することが理想的だと思います。

そのために、自身の経験を若手にしっかりと伝えて、建設業界の発展に寄与できればと思っています。

YouTube動画やSDGsへの取組みは  
右記二次元コードからご覧ください

